

大講堂使用中止の経緯

平成12年10月6日に発生した鳥取県西部地震により、旧本館（階段校舎）や旧管理棟において窓ガラス100枚以上が破損するなどの被害を受けた。これを機に学校施設の安全性確認作業が始まり、平成15年に耐震診断が行われ、ブレースの増設などにより所要の耐震性が確保できるとされた。

ところが、平成22年度に耐震化工事が計画され、コンクリートの圧縮強度試験を行ったところ、基礎部分のコンクリート強度が極端に低く、中性化も進行していることが判明。県から「改修するには多額の経費が必要であることから改修工事設計を中止する」との通告がなされた。「朝日高校における大講堂の意義」と題した文書で学校は県に対し「長年にわたって朝日高校の知育と徳育の拠点であり、厳粛な式典を行うにふさわしい場であり、著名な講師による数々の講演や文化芸術活動の発表が行われ、その存在意義は大きく、かけがえのない財産である」と説明し、大講堂の存続を求めた。

平成23年3月11日には東日本大震災が発生。県は大講堂の存在意義を認めたくて改修の具体的方策の提示を学校に求めた。学校は独自に専門業者に依頼し新たな箇所のコンクリートコア抜き取り調査を行ったところ、昨年度よりも悪い結果が出た。専門家からは「基礎がこのままでは建物の補強工事を行うことはできない」と指摘があった。東南海・南海地震の可能性も鑑み、生徒の安全を第一に考えて、今後は原則使用しないという決定がなされた。平成23年9月10日の朝日祭2日目（文化祭）が大講堂にとっての最後の晴れ舞台となった。

使用中止後の学校行事

大講堂使用中止に伴い、始業式・終業式等は体育館で行われ、講演会や卒業式は市民会館やシンフォニーホールを借りることになった。外部施設は申込み受付が12～15ヶ月前からで、申込みが重なった場合は抽選となり、準備も含めて大きな負担となっている。



卒業式後、生徒は学校にもどる最後のホームルームを行う。

体育館にはステージがなかったので当初は簡易ステージが使われたが、2年後にスライディングステージが設置された。始業式・終業式や学年集会などでは生徒は床に座る。入学式や同窓会入会式は椅子に座って行すが、床のシートと椅子は、物置となっている大講堂から運ぶことになる。段差があり台車が使えず人海戦術となっている。



体育館での同窓会入会式

講堂文化の継承

大講堂使用中止後、『烏城』各号には「講堂文化の継承」が必ず掲載されている。「講堂文化」とは何か、生徒課の先生に伺った。



平成23年9月9日 朝日祭1日目 弁論大会
正面向かって右には「自重互敬」(安倍能成筆)、左には「羣賢畢至」(曾我英二筆)の大書が掲げられている。

風格のある書が掛かり、少し薄暗く、静寂で凜とした空気が漂っている。舞台には赤絨毯が敷き詰められており、あの演壇で語る時、身の引き締まる思いがしたものです。

教員にとっても特別な場所でした。大講堂という「ハレの場」で話をするときは、話す内容を吟味しました。先輩教員から「大講堂でくだらない話はするな」と言われ、生徒が騒がしいと「君の話が悪い」と叱られる。覚悟を決めて何週間も前から準備をしました。まさに修行の場でした。

生徒にとっても特別な場所であったはずですが。卒業式の答辞は、生徒代表に任せ、教師はほとんど手を出しません。彼らは、楽しい思い出、苦い思い出だけでなく、朝日で何を得たか学んだかを語る。まさに弁論大会です。その言葉は後輩の心に残ります。話す者は演壇で語る重みと責任を感じたことでしょう。

場に臨む態度を尊ぶばかりでなく、言葉を大切にし、お互いの理解を深めるのが朝日高校の文化です。これを朝日高校の教員は「講堂文化」と言っています。講堂が使われなくなっても未来に伝えていきたい文化です。



平成23年9月10日 朝日祭2日目 演劇部